恐縮しましたが即座に〝夢〟を書いて下さい。と御願いし書いて頂きました。掛軸は事務所に掛けておきますし、夢の額は私の自宅に掛けておきます。我が家の家宝とします。浪花屋製菓の社長や運転手付の高級車で書いてもらいに来ていられた先客の２人の方でさえ額を１つづつしか書いてもらわなかったのですから、私の喜びは大変なものでした。開業する時も私は普通の反対をやりました。銀行借入をして事務所を建て、公務員であった妻を退職させて安定収入を断って、事務所の電話当番をさせました。いわゆる背水の陣で開業しました。と言うと聞えが良いですが、実は妻は労働基準法が適用されない為残業も深夜労働も休日労働も無制限にさせられるからだったのです。そして、一般に開業して軌道に乗せるのに３年は掛る、という事が言われていますが、私は頑張って、１年で軌道に乗せようと思いました。翌年の春学校卒業生を思い切って採用しました。１年据置の返済が始ったばかりの６月に、前に勤務していた事務所の御得意先の社長から私に電話が入りました。その内容はその社長のお父さんに社会保険庁から〝年金の書類１枚を出していなかった為584万円を返還せよ〟と言う通知が来たが何か良い方法はないだろうか。という質問でした。これは当時そういう事があちこちであったのですが、どうにもならない事を私は良く知っていた為その旨を伝えました。そうするとその社長も「やはりそうかね、労務事務所でもそう言われたが、佐藤さんに聞けば何か良い方策があるかと思って電話をして見ました。」という事で電話を切られました。そこは私の右腕であった部下が担当していた御得意先でした。私は電話を切った後でただちに妻に全額を自分が弁償したい、と話をしましたところ、妻は賛成してくれました。私は直ちにその社長の御宅に司い、その旨を伝えました。そして私のような力のない者から弁償を受けるのは心苦しいかも知れませんが、どうか我慢して受取って欲しい。と御願いをしました。最初の内はとんでもないそんな金はもらえません、と断られましたが、どうにか受け取って頂きました。そして、これで２年目も赤字に成ってしまうかな、と一担思いましたが、しかしすぐ気持を取り直して、これしきの事で赤字にしてたまるか!!と闘志を燃しました。私は事務所から家まで車で12〜13分位で行けるのですが、家には帰らず事務所に泊り込むようにして頑張りました。風呂に入る日だけ家に帰りました。たまに家に立寄ると子供が出て来て今日はうちに泊るか、と問い掛けて来ていや泊まらないと答えると「うちに泊って行け」と言って娘２人が私の両手を引張って家の中に上げようとするのでした。自分の家に立寄っているのに２号さんの家にでも立寄ったような妙な気分に成ったものです。しかし、その御陰でなんとか黒字にできました。今考えて見ますとやはりあの時私が自腹を切ったのが良かったと思います。時間がないようですので結論を急ぎます。私は夢を見るのが好きです。色々な夢を一杯見て、その中の素晴しい事、とてつもなく大きい事それを目標にし、その実現に向って全力投球する事が好きです。そうすれば悔のない人生が送れると思うからです。今、私の目標は日本一の社会保険労務士に成る事、それが私の目標です。皆様の御指導、御鞭韃、御支援、御協力の程宣しく御願い申し上げます。ありがとうございました。やはり今も相変らず馬鹿ですね。

９月６日例会： クラブフォーラム

９月13日例会： 卓話　前三条第三中学校校長　坪谷新太郎先生

三条北ロータリークラブ週報

PUT LIFE INTO ROTARY — YOUR LIFE

ロータリーに活力を—あなたの活力を

国際ロータリー会長 ロイス・アビー　第256地区ガバナー 樫内悌三郎

例会日
1988. 8 . 30
累　計 No 88
当　年 No 9

会長／梨本清一
幹事／今井克義
SAA／米山忠俊

例会日／火曜日 PM12:30〜1:30
例会場／三条ロイヤルホテル　☎34-8111
事務局／三条市西四日町3-15-34
ヒューマン・ハーバー内　☎35-7160

行　　事： 卓話「私の目標」佐藤啓策君

出　　席： 本日の出席　４０名中３２名
先週の出席率　４０名中３４名　８５.００％

先週のメークアップ： ８月24日　三条ＲＣへ　高橋彰雄君
８月27日　長岡東ＲＣ（ロータリー情報セミナー）へ　梨本清一君
樋口金占君　平松利朗君　山崎　勲君
８月29日　三条南ＲＣへ　中條耕二君　平松利朗君　鈴木英友君

ビジター： 三条ＲＣより　榎本　勝君　藤田紘一君　岩井和夫君　渋谷健一君
三条南ＲＣより　弥久保藤雄君　堀越信実君

ゲ　ス　ト： 夏期交換学生　梨本亜子さん

会長挨拶： 梨本会長

夏期交換学生の梨本亜子君が、８月27日無事帰国を致しまして、これをもってはじめて本プログラムが完了した、ということになるわけであります。我が北クラブが創立早々、地区から仰せつかったこの夏期交換学生というプログラムでありました。見ること聞くことはじめてで多少、のハプニングもあった様でありますが今となってみればそれぞれ楽しい経験、愉快な思い出となりました。さしたる事故もなく、所期の目的を見事に達成出来たということで新ためて、会員皆様と共にご苦労さまでした。そしておめでとうございました、と申し上げたいと思います。受入れた米国人学生達、そして派遣した亜子君の様な日本人学生達、この人達が次代の地球を背負って参ります。我々の尽くした、このひと夏の、しかもほんの短い期間でのお世話でありますが、彼等にとって人間形成のエネルギーになっていくものと信じます。ロータリーは、さまざまな奉仕活動を行ってきておりますが、この夏期及び一年交換学生のプログラムはすばらしいプログラムだと思います。日本には現在29の地区がありますが、この交換プログラムを継続している地区は数地区にしかすぎないと聞いております。此の度も亜子君は、三条北クラブで１年交換で受入れたエイミーと電話ですが交流してきたそうですし９年前にやはり三条を訪れた男性とも会って来たそうです。そういう話

を聞きますと、地球はまさにひとつのコミュニティだと本当に思います。いつまでもいがみ合いのない平和な世界、平和な地球コミュニティづくりこそ人類に課せられた使命だと思います。地区のロータリー情報委員会に樋口さん、平松さん、山崎さんと私の四人で行って参りました。我がクラブも、これからもどんどんロータリーのことについて勉強していきたいと思います。

帰国報告： 梨本亜子

8月1日から28日まで、ロータリー夏季交換学生としてアメリカへ行って参りました。出発の際は、送行会を開いていただいたり、御餞別までいただき、大変ありがとうございました。私は病気やけがもなく無事に、27日の午前中に予定どおり成田に到着いたしました。初めて訪ずれたアメリカは私の想像を遙かに超えたものでした。美しい風景や広大な土地、そして大らかで優しい人々に囲まれて、楽しく充実した1ケ月をすごすことができました。最初に、私はカリフォルニア州のタスティンという所に2週間ホームステイをしました。その家には16歳のシャーレットという女の子がいるのですが、彼女は7月に同じくロータリーの交換学生として日本に来て私達と同じフライトでアメリカに帰ったのですでに友達で、また彼女自身も日本で生活したので日本の生活様式を少しは理解していて、なにかと気をつかってくれたのでとてもすごしやすかったです。子供がたくさんいたので毎日大さわぎをしてすぐ仲良くなれたし、車で8時間程のサンフランシスコまでつれていってくださったりヨセミテでキャンプをした事も楽しい思い出です。2番目の家は、タスティンから車で15分程のオレンジにありました。都合で1泊しかしませんでしたが、その家の息子さんは9年前ロータリーの交換留学生として三条に訪ずれたことがあったそうです。私が三条市のことを話すととても興味深く聞いてくれました。3番目の家も同じくオレンジでした。その家は共働きで家には子供もいなかったので、勝手に食事をして、家のプールで泳いだり、本を読んだりのんびりとすごしました。この1ケ月間、観光ではなく、ホームステイという形で滞在したことで3つの違った家をみることができ、とても勉強になりました。私が1番驚いたことはアメリカの人達が日本のことを知らなすぎるということです。「日本ではテレビをみるのか」とか「アメリカに来るためにフォークとナイフの使い方を練習したのか」などと尋ねられ、本当に驚いてしまいました。いろいろな事がありましたが、この1ケ月間のホームステイは頭ではなく身体でアメリカを学べたのだと思います。そしてこの体験をこれからの私の人生に活かしていきたいと思いますし、アメリカでの滞在は私にとって一生の思い出となることと思います。このようなチャンスを与えてくださったロータリーの皆様、本当にありがとうございました。

幹事報告： 今井幹事

◇第260地区年次大会のご案内（ホスト長野ＲＣ）

日時　63年10月29日(土)　30日(日)　会場　長野市民会館・長野国際会館

欲しい」と話をしたら再度交渉をしてくれました。そうしましたら「関根労務事務所がお前の条件で採用するそうだがどうする」と言って来てくれましたので、私はそちらに御世話に成る事にしました。関根事務所に就職しましたら、1カ月もしない内に「お前は燕事務所を開設するから燕に行け」と言われ部厚い労働法規集を渡されました。そして仕事を本格的に始めて見ましたら残業をしてもしても仕事が間に合わず、日曜日も休めない日が多くありました。大晦日の夜11時半頃いつものように帳簿や書類を大風呂敷に包んでバイクの後ろに積み自宅へ運んで仕事をしようと思って走行中、警官に職務質問をされる始末です。従って大学の勉強は進まず、2年を経過しても1年分の勉強しか進んでいませんでした。その為私は考えて見ました。どうしようかと。そして一担就職した以上、簡単に退職してはならない。創意工夫をし、徹底的に努力をし、それでも駄目な時に辞めよう。と結論を出しました。仕事のやり方、新しい仕事の開始、部下の採用、増員等色々手を打った為日曜日は休めるように成りました。そして残りの2年間で3年分の勉強と教員の単位の勉強が終りました。大学4年生の時、社会保険労務士法が誕生しました。翌年、則ち卒業する年に第1回の試験が行われる為その勉強も開始しました。卒業したので本格的に受験勉強を開始したところ、私の母が癌に成っている事が判りました。6月でした。私はこのまま受験勉強を続けて行くべきか、看病だけに専念すべきか考えました。そしてその年の受験を中止したならば母は自分の重病を悟り、癌である事を知って死の恐慌に陥いらせてしまうと思いました。従って、並行して全力投球する事にしました。しかし母は医者の言っていたように私が受験後12月19日に息を引き取りました。そして年が明けて私の合格通知が来ましたので母が私に合格させてくれたように思えました。それから10年後、私は独立開業をさせて頂きました。昭和58年6月1日の事です。開業する前の年、私は湯沢の隣の塩沢町の雲洞庵の私の尊敬する新井石龍さんの所へ行きました。雲洞庵は曹洞宗のお寺です。そこの受付のお坊さんに「上人様から書を書いて頂きたく、伺ったのですが」と申し込んだところ、即座に断られてしまった。「上人様は忙しいから」というのがその理由でした。私は何としても書いて頂いて帰ろうと思いましたので、色々と方策を考えながらその大きなお寺を回っていて庫裏の所で違う修業僧に会って、何か良い方法がないか聞いて見ました。「どちらから来られましたか」「三条からです」「三条でしたら伊藤浅太郎さんを御存じですか」と聞かれました。知りませんと申し上げましたところ、あの方は度胸の良い方で、直かに上人様に頼まれました。またお寺の中を見学していると、先程来から御客様が待っていられた客室に新井石龍さんが入って来られました。私はその客室に入って行き石龍さんにこう御願いした。「私は来年独立開業するのですが、それに際して、今後私が目標とすべき言葉を是非書いて頂きたいのです」と御願いして見ました。和尚は私を厳しい目でにらみ続けられた後「書いてやるから墨をすれ」と言って下さいました。そして「雪後初めて知る松柏の操。事難にして方に見る丈夫な心」と掛軸を書いて下さいました。そしてこれはどういう意味ですかと聞きましたら、冬の厳しい寒さが来て木々の葉が皆落ちた時、松や新柏の木の美しさが判る。人間も普段は誰も変りがないように見えるが、困難な事体が発生した時に実力のある人はまざまざとその魅力を見せつけます。だから普段から修養をしていなさい。という意味だと教えて頂きました。しかも「他に何を書こうか」と聞かれました。私は